

熊本県看護連盟

ひごつばき

H I G O T S U B A K I

vol. 31

H30.6.7発行



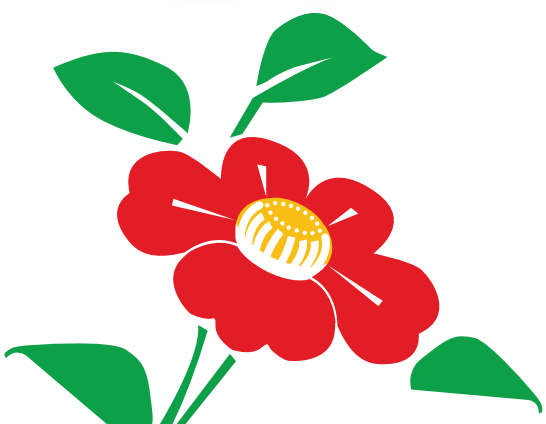
玉名市
高瀬裏川花しょうぶまつり



CONTENTS

会長あいさつ(重松節美・草間朋子)	2P
国会議員たより(あべ俊子・たかがい恵美子・石田まさひろ)	3P
国会議員たより(木村やよい)・県協会長あいさつ(嶋田晶子)	4P
熊本県看護連盟通常総会のお知らせ	4P
平成30年度 熊本県看護連盟通常総会プログラム	5P
2号議案 平成30年度 活動計画(案)	6~7P
3号議案 平成30年度 予算(案)	8P
議員活動報告・看護連盟の対外的活動	9P
石田まさひろ参議院議員の活動紹介	10~11P
たかがい恵美子参議院議員 雑談の会	12P
OB交流会・平成30年度研修会予定・熊本地震の見舞金、義援金について ..	13P
訪問看護ステーション管理者交流会・ポリナビワークショップ・阿蘇交流会 ..	14P
会員のひろば	15P
入会会員数・お知らせ・編集後記	16P

熊本県看護連盟会員数：7,108名(平成30年5月25日現在)



熊本県看護連盟会長あいさつ



熊本県看護連盟
会長
重松 節美

2018年も初夏を迎え山々の緑もすっかり色濃くなって参りました。会員の皆様におかれましてはご清祥にお過ごしのことと存じます。日頃から看護連盟活動にご支援・ご協力頂き感謝申し上げます。

2016年4月の熊本地震から早2年が過ぎました。まだ仮設住宅やみなし仮設等にお住いの方が2018年3月の時点で38,000人余りいらっしゃるの事、一日も早い復興を願うばかりです。この地震で全国の看護連盟会員等の皆様から頂いた義援金(総額¥9,803,455.-)は、2017年度末までに半壊以上の295名の会員の方に配布し残金ゼロとなりましたことをご報告致します。

さて、2017年度の活動に関しましては、年度当初の計画に加えまして、看護職国会議員(参議院石田まさひろ議員、たかがい恵美子議員、衆議院あべ俊子議員)の来熊(3回)をお願いし国政報告会や意見交換会・雑談の会、施設訪問等を実地しました。

また、3回/年のひごつばき発刊に加え本年3月には、ひごつばき「号外」を初めて発行致しました。

ところで2018年は看護連盟にとりまして「知る・伝え広める」重要な年です。看護連盟への入会促進と共に、昨年の日本看護連盟総会で決議されました組織内候補予定者「石田まさひろ」を応援する会への入会を、会員一同一丸となって頑張る行かなければなりません。また、看護現場の問題・課題を政策・制度に繋げるためには、国政の場に看護職の代表がいることが如何に大切な事であるかを、もっともっと多くの看護職の方々に伝えて行かなければと考えます。

会員の皆様、今年度も宜しくお願いします。そして互いに頑張りましょう。

日本看護連盟会長あいさつ



日本看護連盟
会長
草間 朋子

「選挙の結果が組織の力を示します!!」

例年になく早いスピードで全国を駆け巡った桜前線、ツツジ前線もあっという間に終わり、新緑が目にしみる季節となりました。

新しい年度を迎え、診療報酬・介護報酬の改定や、新人看護スタッフの受け入れなどで慌しかったみなさまの職場も、平静さを取り戻しつつあるのではとお察しいたします。

近未来の人口構成の推定、社会保障制度に掛かる経費などの情報が矢つぎ早に出され、それを目にするたびに、健康寿命の延伸に向けての「自助」の必要性を実感しております。

さて、参議院議員選挙もいよいよ1年後に迫ってまいりました。平成28年度の日本看護連盟通常総会において看護職を代表する組織内候補予定者を決定し、会員のみなさまのご支援・ご協力をいただきながら、「応援する会」とともに、活動を続けております。

医療職の半数以上を占めている看護職が明るく元気で働くことができる就労環境を作っていくことが、日本を元気にすると確信しております。そのためには、看護連盟の組織力が重要です。選挙の結果が、連盟の組織力を社会に対して、アピールする指標となります。スローガン「ベッドサイドから政治を変える」を掲げる看護連盟が、日本の元気を作る力強い組織であることを示すことができるように、会員のみなさまと力を合わせてがんばっていきましょう。

国会議員たより



衆議院議員
あべ 俊子

熊本県看護連盟の皆様には日頃より温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。
現在、第196回通常国会が開かれています。私は財務金融委員会と予算委員会に所属していますが、国家予算のおよそ3割を年金・医療・介護といった社会保障費が占めているわが国において、次世代にツケを回さないための政策は待たないことを日々実感しています。無駄を省きつつも、本当に必要な部分には十分に予算を確保していけるようしっかりと取り組んでまいります。

また党内では、今年も一億総活躍推進本部のプロジェクトチームにて座長を務めることになりました。担当するテーマは「多様な働き方の推進」。様々な事情や環境に即した働き方によって、一人ひとりがその持ち味を発揮できる社会にしていくためにどのような政策が必要か、検討を進めてまいります。

そして看護職の皆さんが働きやすく、やりがいをもって看護ができるお役に立てるよう、引き続き現場の声をお聞かせいただきながら全力で取り組んでまいります。今後とも皆様からの温かいご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



参議院議員
たかがい 恵美子

春陽の候、熊本県看護連盟の皆さまにおかれましては、お健やかにお過ごしのことと拝察いたします。東日本大震災後8度目の春を迎え、県内においても新たな拠点で創生への歩みを進める方々の力強いお姿に触れる機会が徐々に増えてまいりました。その一方で、独居者の健康維持や長期にわたる心のケアといった‘人の手によるお世話’、身近な場所での支えがますます重要性を増しています。殊に今春は医療介護総合確保推進法ができて初となる診療報酬・介護報酬の同時改定が行われましたので、私たち看護職一人一人が、地域における医療や介護の現場に即した技術評価部分をしっかりと取り込んで、さらなる国民福祉の向上に貢献していきたいものです。

今国会では、准看護師資格試験の実施に係る行政改革についても審議される見通しです。働き方改革が政府の主要課題となっている今、就業動向を踏まえつつ人生百年時代を先取りした看護職の生涯にわたる活躍の道筋について政府を挙げた議論を展開する時機到来の感をもって臨んでいます。昨年来、委員長を務める文教科学委員会においても課題は山積しております。何事も今あることに感謝して丁寧に手を抜かず、現場第一主義を貫いて参りますので、引き続きご支援賜りますようお願いいたします。末筆となりますが、皆様のますますのご多幸とご繁栄を祈念いたします。



参議院議員
石田まさひろ

熊本県看護連盟の皆様、日頃より温かいご支援を賜りありがとうございます。

第196回通常国会は法案審査の真っ只中です。私は、参議院厚生労働委員会の筆頭理事を拝命し、委員会の持ち方や内容について、野党と最前線で交渉や調整を行っています。

今国会の厚生労働委員会は、安倍政権のメインテーマである働き方改革法案の審査をはじめ、生活困窮者自立支援法、受動喫煙を防止する健康増進法、医師の地域偏在を是正するための医師法・医療法改正など重要法案が多数審議されています。特に、医療法・医師法改正については、山間部や離島などを中心に医師不足が起り、看護職にも業務量が増える、緊急時に医師が不在で対応が遅れるなど深刻な影響が出ているという声を看護連盟の皆さんからお寄せ頂いています。この課題解決に向け、立法府の立場から法改正による状況改善に尽力しています。

しかし、法案審査の真っ只中、財務省での決裁文書の書き換え等の問題が相次いで起り、野党が国会や各委員会の開催に反発して、断続的に本会議や委員会が開催できない状況が起りました。厚生労働委員会は所掌範囲が広く、国民生活に直結する重要な法案が多く審議されます。刻一刻と変化する国会情勢の中、有意義な法案審議ができるよう一つ一つ丁寧に仕事をし、役職を全うしてまいります。

今後とも皆様からのご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

国会議員たより



衆議院議員
木村やよい

熊本県看護連盟の皆さま、こんにちは。

5月2日、衆院厚生労働委員会にて、働き方改革関連法案の質問に立ちました。

日本看護協会での勤務時代、若い看護師2人の過労死認定を受け緊急実態調査をしたこと、「看護職の労働環境改善」を重点政策のトップに掲げ、多様な勤務形態を推進したこと、それが新人看護師の離職減にもつながったことをまず伝えました。

その上で、看護師の変則的な就労の特殊性を踏まえた勤務間インターバルの確保、1994年以降改訂されていない「看護師確保等基本指針」について、一億総活躍・今回の法整備を踏まえ、夜勤負担軽減に向けた数値目標の記載を含めた改訂を求めました。これについては平成29年度に日本看護協会が医政局長宛に要望をしております。

高木美智代副大臣より、深く検討していくと回答いただきました。

これからも「誰もがより健康で活躍できる社会」の実現に向け、看護と看護職のため、看護系議員の先輩方と力を合わせ、精一杯、汗をかいてまいります。

看護協会会長あいさつ



熊本県看護協会
会長
嶋田 晶子

若葉かおる季節となり熊本地震から早2年が過ぎました。まだまだ日常を取り戻せない方々も多い中、少しずつ復興が進んでいます。熊本県看護協会では昨年より阿蘇地域における医療提供体制の回復に向け、看護連盟からもご支援をいただいた「くまもと復興応援ナース」体制の継続を図り、全国から応援をいただいているところです。

熊本県では2025年に向け地域包括ケアの実現に向けた医療・介護提供体制の見直しが行われ、第7次医療計画、第7期熊本県高齢者福祉計画・介護保険事業計画が策定されました。また、各市町村での地域包括ケアシステムの推進に向け、協会としても今まで以上に支部との連携強化に努めてまいりたいと思っています。

さて、皆様ご承知のように今回の診療報酬・介護報酬のダブル改訂では、来るべき将来の医療・介護ニーズに備え、地域包括ケアシステムの構築に主眼を置いた改訂となり、医療と介護の連携を強化する仕組みの導入が行われています。

ところで、日本看護協会は日本看護連盟と共に国に対して政策に関する様々な要望活動を行っています。また、県看護協会も県看護連盟と共に県に対して県民への看護のより良い提供のための予算要望等を行っています。政策を実現させるため協会・連盟が一体となって取り組むことが必要です。そのために会員を増やしそれぞれの組織強化を図って

まいります。

最後に、熊本県看護協会は昭和22年に日本助産婦・看護婦・保健婦協会熊本県支部として設立以来、70年を迎えます。6月23日開催の通常総会では日本看護協会福井会長に記念講演をお願いいたしました。今年度も理事・職員と共に事業に取り組んで参る所存ですので会員の皆様のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

熊本県看護連盟通常総会のお知らせ

次ページのプログラムにて、通常総会・特別講演会を開催します。

特別講演を 熊本県議会議員 自民党県連会長 前川収 先生
国政報告を 看護職国会議員 衆議院議員 木村やよい 先生
 にお話ししていただきます。みなさまお誘いあわせの上ご参加ください。

議員活動報告より



あべ俊子 衆議院議員

2月より、一億総活躍推進本部の検討会で座長を務め、「多様な働き方を推進するプロジェクトチーム」を担当している。全世代が活躍できる社会を目指し、5月の取りまとめに向けて検討を重ねている。4月は衆議院財務金融委員会で質問に立ち、社会保障負担の問題や年金などの制度改革の必要性について訴えた。

4月13日には、47都道府県看護連盟会長会と自民党看護問題対策議員連盟総会が開催され、他の看護職国会議員3名と共に看護職の意見に耳を傾けた。



たかがい恵美子 参議院議員

看護連総会で新たな活動方針を決定。国内の12の主な看護関係団体、関係省庁の代表者並びに都道府県看護連盟会長が一堂に会する中、平成30年度自民党看護問題対策議員連盟総会が開催され、今年度の会員数は351名と国会随一の規模を堅持しており、看護のさらなる発展を目指して新たな活動方針を採択した。

自民党政調では海外からの旅行客の増加に伴い、外国人への医療の在り方についても検討を始めている。全旅連(※)青年部の総会式典では海外からもたらされた麻疹流行を例に、相互の協力体制の強化について改めて強調した。

※全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会



石田まさひろ 参議院議員

3月28日に開かれた参議院本会議で、平成30年度予算が成立しました。総額9兆7,128億円のうち、社会保障関係費は3兆9,732億円(前年比+4,997億円)で、全体の3分の1を占めます。新年度から、診療・介護・障害福祉サービス等報酬のトリプル改定が行われ、プラス改定となった。

また、昨年の衆議院議員選挙で公約に掲げた、「子育て安心プラン」前倒しによる保育の受け皿拡大や、データヘルスを推進する為の予算でも増額された。



木村やよい 衆議院議員

H30年1月25日、国際母子栄養改善議連合の栄養シンポジウムで司会を務めた。難民支援と栄養をテーマにした議論では、パレスチナでの栄養不良問題や食糧支援の在り方が取り上げられ、難民が陥っている「貧困-偏食-生活習慣病」という負のループは、決して対岸の火事ではないと感じた。同日、日本看護連盟会長会に出席し、女性医療職の働きにくさの改善など国会での活動を報告した。

本年も、医療や子育て支援といった社会保障の充実、地域の課題解決に取り組み、日本のために力を尽くしてまいります。

看護職代表 石田まさひろ参議院議員の活動紹介

看護職代表を国政の場に出すことの必要性は分かるが、代表がどんな活動をしているかについては殆ど知らない、という声を聞きます。皆さんいかがですか。

そこで、第1回目として参議院議員の石田まさひろ氏の活動についてご紹介します。

〈石田まさひろ議員の主な実績〉

- ・ **人手が足りない** → ①潜在看護師の掘り起しのため、看護師免許保持者の届け出制を創設しました。
- ・ **もっと優しく見守りたい** → ②認知症ケア加算を新設（診療報酬）しました。
- ・ **心も支えて欲しい** → ③精神科のアウトリーチの評価（診療報酬）で手厚く心のケアをします。
- ・ **安全な社会をめざして** → ④危険ドラッグ対策を行っています。
- ・ **スキルアップしたい** → ⑤教育訓練給付制度の見直しでキャリアアップを支援します。
- ・ **安心して働きたい** → ⑥看護職人材紹介事業の適正化を行いました。
- ・ **平成30年度の診療報酬改定への関わりでは**

「一般病棟入院基本料7対1」の維持、外来看護の役割を変える「入院時支援加算」の新設、記録・事務作業の合理化・簡素化に向けた見直し等（詳細は、ひごつばき号外をご覧ください。）

以上のような実績を残されています。今回は、「認知症ケア加算」について、実際これを活用されている医療機関の看護管理者のご意見を次に掲載しました。

認知症ケア加算を算定して



くまもと成仁病院 看護部長 村上元子

くまもと成仁病院（以下、当院）は、熊本市東部に位置するケアミックス型の慢性期病院です。2000年から在宅支援センターを併設しており、地域住民の方々の支援にも積極的に取り組んでいます。病院や地域では、超後期高齢者や認知症患者は増加の一途をたどっています。そのような中、多職種のチーム介入が効果的であるということもあり、平成28年度の診療報酬改定で「認知症ケア加算」が新設されました。石田まさひろ議員の働き掛けで新規加算となったことは周知の事実です。当院は、ほとんどの職員がオレンジリングを持っています。認知症ケアを実践するにあたり、理解を得やすく大変助かりました。

身体拘束を実施すると減算という仕組みになっています。安全のための身体拘束が認知症周辺症状の増悪を生みます。看護師も身体拘束を解除するには勇気が必要です。しかし、今回は本気で抑制廃止に向けて取り組むことができました。当院では認知症ケア加算が29年度延べ数36713件取得することができました。看護師の努力が可視化され、さらには、私たちが元気でいられるのも、看護職代表議員の支えによるものと痛感しました。看護師のためにありがとうございます。

認知症ケア加算1を算定して



熊本赤十字病院 認知症看護認定看護師 河崎あゆみ

超高齢社会に突入し、急性期病院である当院でも身体疾患の治療目的で入院する認知症患者は年々増加の一途を辿っています。認知症患者への対応は切迫した課題であり、当院では平成28年1月に「認知症ワーキンググループ」が発足し、4月からは「認知症サポートチーム（DST）」に名称変更し、14名の多職種メンバーで活動を開始しました。

平成28年度の診療報酬改定において認知症ケア加算が新設され、同年5月から認知症ケア加算1を算定しています。このことは追い風となり病院全体で認知症への関心が高まりDST活動の促進にも

繋がっています。

DSTでは毎週月曜日にチームラウンドを行っています。「認知症の人の意思が尊重され、できるだけ住み慣れた地域へ戻れる」「意欲的に認知症ケアに取り組める」をモットーに、病棟スタッフと共に具体的ケアや支援方法の方向性などを検討しています。DSTの強みは他職種メンバーで関わる事で各職種の専門性を活かした支援ができることです。その結果、患者さんへの関わり方などの具体的なケアの習得、医学的情報の共有、せん妄や行動・心理症状の予防・改善、スムーズな退院・転院調整などの成果に繋がっています。

認知症ケア加算1を取得して～現場がどう変わったか？～

谷田病院 看護部長 岩崎真由美

当院の入院患者さんの平均年齢は85歳です。身体合併症を有しておられ、認知症の症状が無く入院されても、行動心理症状（BPSD）を発症する患者さんも多く、日々対応に追われていました。平成26年から院長や前部長を始め、病院全体でも認知症患者さんへの対応力を向上する取り組みが始まりました。さらに、翌年認知症ケア加算1の施設基準でもある「認知症ケア専門チーム」が充足し活動を開始したことで、認知症の患者さんを一人の生活者として捉え、認知症の人や家族の目線でケアをする事の大切さを学ぶ機会が増えました。「認知症の人の気持ちをもっと知ってケアに繋がたい!!!」千馬リンクナースの言葉が、現場のうれしい変化の一つです。



谷田院長

患者さんへの対応力の幅が広がり、ケアの質が高まりました。認知症患者さんへの、対応力の許容量が増えたと思います。



岩崎看護部長

専門チームとスタッフステーションの繋がりがよりよいケアに！“人”として笑顔で接する事の大切さを、患者さんからも学び続けています。



澤村認知症看護認定看護師

認知症のBPSDは業務の困難上問題視されていました。看護記録は不十分で病気のことは書かれていたが、認知症患者さんの助言、周囲の状況はあまり書かれていませんでした。加算1取得により、1回/週カンファレンスをおこなう必要上、患者さんの言動や、周囲の状況を意識的に記録に残さなければならなくなった事も、認知症という疾病を意識し、学習効果にもつながる機会になりました。

たかがい恵美子参議院議員

雑談の会

たかがい議員との雑談の会を実施して

県南1支部長 齊所純子



平成29年度も最後の3月31日、たかがい議員との「雑談の会」を行った。急なお願いにも関わらず、谷田病院の多目的室を開放していただいた。事前に、谷田理事長を初め看護職、事務職など5名の方にお集まりいただき打ち合わせも行った。

当日、県南1支部の看護職など16名の方に参加していただき活発な意見交換がなされた。

意見のほとんどは、「看護補助者(介護者)獲得の困難さ」であった。たかがい議員からは、「介護」は新しい職種。「介護」という職種は、日本にしかない職種であるという説明もあった。そして、「だから、どうしたいのか？」と問われ、私たちの中に明快な「こうしてほしい」という具体策も提案できなかった。不足しながらも残っている人員で頑張ってしまう看護職の性には、前進することを阻んでしまうことに改めて気づかされる。たかがい議員は、今回のような「雑談の会」を各地で開き、このような自分たちである事に気づき提案ができるようになってほしいと期待されているのである。この会を地道に開催していければと考えている。

事務職の方からは、雇用関係の助成金(厚生労働省所管)に関して、職員数100名以上の病院は「中小企業」ではなく「大企業」に分類されてしまうので、利用できる助成金が限られたり、助成金額が中小企業枠よりも低額だったりしている。できれば職員数100名以上という基準を緩和していただき、多くの中小規模病院が中小企業に分類され、助成金が利用しやすくなるよう見直しをお願いしたいと提案された。たかがい議員からも「それは気付かなかった。早速、厚生労働省に検討するよう伝える」と返答されていた。午前中に甲佐町の谷田病院での会を終えられ、その足で天草に向かわれた。

たかがい恵美子参議院議員天草に来たる！

天草支部 天草病院 山口慎一



春色日増しに濃くなる、前年度末の3月31日、なんと！たかがい先生が、お忙しい仕事の合間を縫って、天草諸島に国政報告(雑談の会)においてになりました。

看護師の代表として、国政でご尽力なさっている先生には、以前数回お会いした事もありますが、先生のはつらつとしたお言葉には正直いつも圧倒させられ「今日は先生とディスカッションできる良い機会を頂いたんだ」と胸が躍りました。実際私は緊張のあまり発言できなかったのですが、意見交換で様々な内容が飛び交い、天草ならではの人口減少の問題、看護師確保困難の実態、労働賃金の格差への疑問、などのテーマが中心になりました。先生からは「では、どうすればその悩みが解消されるのか、雑談の会を定期的に設

けて、ただ困ったというのではなく、自分達はどうか行動すれば解決に近づけるのかを考えることが大事」というアドバイスを頂き、「そういう事か」と自分自身一歩前進できたような気持ちになりました。終始和やかな会を先生自ら進行し、また最後には「写真撮ろう！」と気軽に声をかけて下さり、とても身近に感じる充実した一日となりました。たかがい恵美子先生、天草までお越し頂き、ありがとうございました。

OB交流会

期 日：平成30年3月22日(木)14時～15時30分
会 場：くまもと県民交流館パレア 9階会議室
参加人員：23名（うちOB 10名）

重松会長より熊本地震被災者へのお見舞いの挨拶で始まりました。連盟総会の結果では代議員数が会員あたり400名に1名と半減する予定であること、「石田まさひろを応援する会」会員の1/3しか投票に繋がらなかった結果より、目標票数の3倍の後援会入会者を集めようと述べられました。次に「ひごつばき編集を担当して心がけたこと」と題して山本史恵副会長より講演が行われました。目標としたのは①連盟活動・看護職国会議員の活動を分かりやすい記事にする。②会員のための情報を、タイミングよく掲載する。③会員の意見を反映させ、交流できる内容にする。であったと述べられました。期日前投票の呼びかけや、選挙結果報告、研修会アンケート、支部長の声、災害見舞金などの記事を示して報告されました。OB会員からは素晴らしい内容で良く考えられていると好評でした。平成24年の第13号より発行に関わって頂き、今後も広報担当役員としてご尽力をお願い致します。



交流会では近況報告や情報交換が行われるなかで、議員の活動を会員に行き渡らせる困難さがあると、昨年と同様の意見が出ました。短時間ではありましたが、次年度の再会を誓いつつ和やかなひとときで終了しました。
 (記載者 河添 真理子)

平成30年度 研修会予定

期 日	項 目	講 師	会 場
7月28日(土)	管理者セミナー	大島敏子先生	熊本テルサ
8月11日(土)	看護教育者交流会		
8月21日(火)	若手・新入会員研修	青年部	
9月 4日(火)	若手・新入会員研修	青年部	
9月 8日(土)	リーダー研修会	大島敏子先生	
9月15日(土)	国政報告	石田まさひろ議員(東北3支部地域訪問予定)	
9月25日(火)	リーダー研修会	大島敏子先生	
10月13日(土)	会員研修		
11月17日(土)	会員研修(選挙違反防止)	友納理緒先生	未定
H31年1月	看護協会・看護連盟合同研修会	石田まさひろ議員	看護研修センター

熊本地震の見舞金・義援金支給について(平成28年12月～平成30年3月)

(単位:円)

見舞金
支給

支給元	全壊(55件)	大規模半壊(46件)	半壊(194件)	合計(295件)
熊本県看護連盟	1,100,000	920,000	1,940,000	3,960,000

義援金
支給

支給元	全壊(55件)	大規模半壊(46件)	半壊(194件)	合計(295件)
義援金	2,200,000	1,840,000	3,880,000	7,920,000
義援金2回目(平成29年度看護連盟入会の被災会員266名へ一律6,000円支給)				1,596,000
合 計				9,516,000

※義援金等合計9,803,515円(義援金総額9,803,455円受取利息60円)

見舞金・義援金の送付等の必要経費が344,157円 不足分56,642円については、県連盟から支出

平成30年度訪問看護ステーション管理者交流会 「石田まさひろと語る会」を開催

副会長 山本史恵



平成30年5月12日、ホテル熊本テルサで、初めて交流会を開催しました。県内の訪問看護ステーションから管理者21名及び県看護連盟役員6名が出席し、活発に意見が出されました。

石田参議院議員の国政報告では、訪問看護制度発足時のいきさつの話に始まり、今後のステーションの方向性や事業に取り組む姿勢のあり方などについて話されました。ステーション数の割には利用者が増えない理由に、保険対象であること、世の中は良いものを安くとの思考の中で、利用単価が介護よりも高いこと等を挙げられました。今後の道として、①デイとショートと訪問看護を組み合わせることでやることの発想。多機能型として経営を拡げていくと発展するかも。②報酬外でどう生きるかを真剣に考えること。③自治体からの支援を引っ張ってくる（集落住人の健康管理、訪問看護をすることを条件にする等）。そろそろ、そういう発想も必要ではないかと提案された。

次に、管理者との意見交換会では、複数人訪問看護についての意見をはじめ、訪問看護事業の問題点、経営上の課題等について、多くの意見が出されました。

終了後のアンケートでは、今回の交流会を歓迎し今後も開催して欲しいこと、色んな発言が出来て良かったこと、石田議員が制度のことや困っていることを聞いていただき良かった等の意見が述べられました。

平成30年度 熊本ポリナビワークショップ

青年部 竹内大史

平成30年度 熊本ポリナビを5月12日ホテル熊本テルサにて開催された。

参加者174名・第1部の座談会では、初めての試みとして、「Clica」スマホアプリを利用して、会場参加型の研修会を行った。会場の意見が多かったのは、「カンファ、記録事にてケアの時間が十分にとれない。」「サービス残業や給料が低い」等あがった。石田議員より記録について「診療報酬改定後、記録・書類は増える一方だったが、看護連盟と看護職代表議員が声を上げ、削減する流れになってきた。」給料について「働き方改革が謳われるなか、サービス残業は無くしていくのは当然であり、その他委員会活動等の役職にも手当がつくべきであり、今後国会でも争点となっていく。」とコメントがあった。

第2部では石田議員が、「科学技術が進歩・変化していくなか、今後看護も変化していくかもしれない。それに対応し、働き続けられる環境を作っていくため皆で協力し、声を上げていきましょう。」と話された。今回の参加型の研修は、日頃発言出来ない人達が、自分の声として人前で出せたと非常に好評であった。



石田まさひろ議員との交流会について

県北2支部 佐々 智英



5月12日18時から、阿蘇地域の医療機関に勤める看護職の方々を中心に、石田まさひろ議員との意見・情報交換交流会が開かれました。約30名の方々に参加頂き、震災後の阿蘇地域の医療の現状や看護を取り巻く環境、特に人手不足の問題や記録等による残業時間の問題など様々な意見が会の中では活発に交わされました。参加された会員の方々からは、「直接石田さんと情報などが交換できて良かった。」との声が多く聞かれました。石田議員からも、阿蘇の現状と状況を時下を感じ取られ、「今回、直接来て、見て、意見や情報の

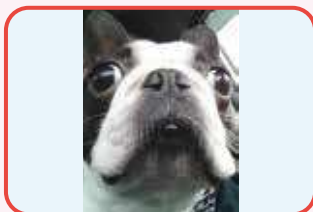
生の声を聞きかせて頂いたので、実際の状況がよく分かり有難かった。貴重な時間を作って頂いて感謝しています。」と思いを語られた。



「会員の広場」宛
 メール: knf043@world.ocn.ne.jp
 FAX: 096-383-0163

我が家のペット自慢

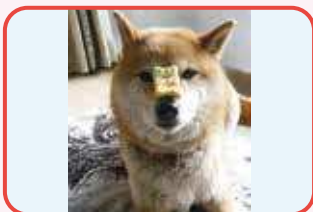
沢山お寄せ頂き有難うございました。



ぷーちゃん(ボストンテリア)
 鼻ぺちゃの犬種なので、いびきがすごく、いつも鼻が垂れています。この大きなクリクリした瞳に、毎日骨抜きにされています。



もも(ミニチュアシュナウザー)
 名前は3月生まれにちなんで「もも」と名付けました。大切な家族の一員で、私の「癒し」となってくれています。元気に仕事ができているのも「もも」のおかげです。



マルちゃん(柴犬)
 「鼻の上におやつを乗せて待て」等などたくさんの芸ができます。名前の通りまんまる体型に癒されています。



みくちゃん(アメリカンショートヘアミックス)
 「ちゅーる」が欲しい時は、タオルホルダーをたたいてアピールする芸を習得しました。



Qoo
 我が家の可愛い可愛いQooちゃんです。



凜と仁(リンとジン)
 兄弟の猫で4歳になります。毛がふさふさで、添い寝もしてくれます。家族みんなが癒されています。



めだか
 地震の後、鉢のめだかに癒される。



オオクワガタ
 名前はついていません。夏祭りで見つけました。今年で4年目です。冬眠中を起こしました。



ピピちゃん(インコ)
 お坊さんがきて一緒にお経をよみますよ。



にこちゃん(インコ)
 肩に乗ったり、ものまねをしたりします。



カマキリ
 親子です。親はかまちゃん、子供はぎりちゃんです。

「我が家のペット自慢」提供施設
 ・熊本赤十字病院
 ・青磁野リハビリテーション病院
 ・阿蘇温泉病院
 ・個人会員
 ご協力ありがとうございました。
 ※今年度は「我が家のペット自慢」です! ペットの写真・名前と一言コメント、投稿者名(ペンネーム)掲載の可否を8月10日までに、上記「会員の広場」にメールでお寄せ下さい。



♥ あなたの脳を活性化しましょう ♥

同じ文字が入る四字熟語を考えましょう。

- ① □□五五 ② 前途□□ ③ □立□歩 ④ □身□霊
 ⑤ 岡□八□ ⑥ □画□贊 ⑦ □飲□食 ⑧ 一□合□

(回答は次号掲載)